

琉球大学学術リポジトリ

[COE研究員の研究紹介] 海草藻場の存在がサンゴ礁魚類の多様性に果たす役割

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム広報委員会 公開日: 2007-07-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 洋平, Nakamura, Yohei メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/1132

海草藻場の存在がサンゴ礁魚類の多様性に果たす役割

中村洋平（種の多様性研究グループ COE 研究員）

熱帯・亜熱帯域の沿岸浅所に発達する海草藻場は、サンゴ礁やマングローブ林とならんで熱帯沿岸の景観を構成する代表的な要素である（図）。海草類は一次生産者として、また枯死後の有機物提供者として機能しているだけでなく、魚類や無脊椎動物に棲息場所を提供するなど沿岸生態系において重要な役割を担っている。またサンゴ礁に棲息する幾つかの魚類が海草藻場を餌場や稚魚の成育場として利用していることから、藻場とサンゴ礁は物質循環や魚類を介して密接なつながりがある。このように多様な棲息環境を含む熱帯沿岸生態系では、それぞれの棲息場所が独自にかつ相互に関わり合いながら機能していると考えられる。

以上の視点から、著者らは魚類を介した琉球列

島のサンゴ礁と海草藻場の機能的な関わり合いを明らかにするため、八重山群島・沖縄諸島・奄美群島の3地域におけるサンゴ礁と藻場の魚類相とその藻場利用パターンを潜水観察によって調べている。調査は継続中であるが、地域特有の魚種や藻場利用パターンが確認されるなど、地域間における魚類相やその生態の類似点と相違点が明らかになりつつある。また海草藻場やサンゴ礁の有無が双方の魚類群集の構造に及ぼす影響や、安定同位体比分析による魚類の主棲息場所の特定などの研究も行っている。今後、これらのデータを包括分析していくことによって、各サンゴ礁海域に藻場が存在することによってどのような魚類が恩恵を受け、その地域における魚類の多様性に貢献しているのかが解明されるだろう。

